

小学生を対象とした水球体験教室の有用性

Usefulness of water polo school for elementary school students.

1K10C125-2 加藤廉也

主査 中村好男先生

副査 奥野景介先生

【はじめに】今現在日本の水球は世界に認められつつある。今年の7月に行われたFINAワールドリーグ・スーパーファイナルでは強豪モンテネグロに白星を挙げたことによって、世界も日本のスピードを生かした戦術には目を疑い、高い評価を頂いている。世界で日本が認められていても、実際に日本が水球の国際大会において、好成績を挙げてもニュースに少し載るくらいのもので、サッカーや野球のようにメディアは取り上げてはくれないだろう。いわゆる水球はまだ日本国内ではマイナーと言うことだ。私は一競技者として、マイナー競技からメジャーな競技へと変わってほしいと強く思う。また、プロスポーツとしての幅は狭く、大学卒業を機に引退してしまう選手が大半であり、社会人での競技続行するものは極わずかな者である。日本水球に置かれている現状は決して豊かなものではない。私は今回、アクアゲーム（水球の簡易版）が生涯スポーツとして有用であるかどうかを調査し、たとえ泳ぎが苦手な者でも行うことが出来る物をうまく世に知ってもらうことによって、水球の発展と普及につながるのではないかと考えた。

【基礎知識】水球の競技としての起源はイングランドであるとされている。1837年にNational Swimming Societyが組織され、スポーツとしての水泳が普及し始める。ロンドンにある5つまたは6つのスイミングクラブの責任者が集まり、1868年11月にアマチュアレースに関する規則を制定した。その後、これらのクラブによってメトロポリタン水泳協会が組織された。このメトロポリタン水泳協会が組織されて以降、余興として水中でボールを扱うゲームが生まれ、1870年にメトロポリタン水泳協会が"Football in the water"のルールを作成するための委員会を設置し、同年ルールが制定される。その後、幾度のルール変更を経て、1899年に国際水球ルールが制定される。現在とほぼ同様の「競技としての水球」が確立されることになる。

水球は水中の格闘技とも言われ、怪我などが多

く、足もつかないプールで行うため、危険性も非常に高く、一般的に競技者以外の者が水球を行うことは危険とされてきた。しかし近年アクアゲームといい、水球の簡易版とされる競技が生まれた。それは小学生から年齢の高い者まで楽しく行えるスポーツである。相手に対するボディータッチも禁止とされ、パス交換を重視した、もっとも危険性の低い競技である。

【方法】早稲田大学水泳部水球部門は6年前から、所沢市内の小学校で夏休みに水球教室を開き、小学生を対象にアクアゲームを体験してもらうイベントを開いている。今回調査するにあたってインタビュー調査を行う。インタビュー対象者は実際に水球教室の指導経験がある水球部員3名で、4年以上の指導経験がある者とする。

【結果】アクアゲームは生涯スポーツとして有用であると全員が答え、また水球教室を行って、小学生は楽しそうに行っていて、安全性の高い競技と評価しているため、高齢者の方にも道具と環境を整えば、アクアゲームを行うことは可能であると証言している。しかし、水球教室を行う回数が各地域多くて1回のため、定期的に行わないことにはあまり効果も得られないと考えているようだ。

【考察】今回3名にインタビュー調査を行い、それぞれ同じ問いに対し、全員が水球教室は水球の普及、発展に良いものだとしている。私も同感であり、定期的に続けていく必要があると考える。アクアゲームは高齢者にも実施出来るようなルールと環境になっているため陸での競技よりも怪我のリスクも少ないと考える。しかし、健康にも良いとはいえず、行う環境がなくてはならない。今現在の日本はプールと言えばスイミングという考えが主流である。各地域の市民プールにアクアゲームを行える環境を作られることが理想である。そのためにも今後は、水球教室を定期的に、また、小学生だけでなく高齢者向けの教室などを開き、水球を子どもから大人まで興味を持っていただくことが必要でと考えられる。